

地域総合

【福岡】九州大学（福岡市東区、有川節夫校長）は17日から3日間、JR博多駅と大型商業施設を連携させたデジタルサイネージを活用し、マーケティング効果検証の実証実験を行った。デジタルサイネージと無線ネットワークを組み合わせた実験は国内初という。地域経済や地域社会の発展を目指し、同大が中心となる産学官で構成するデジタルサイネージのコンソーシアムを年内に立ち上げる方針だ。

た。

実験への参加対象はおサイフケータイやエディなど、ソニーの非接触ICカード技術「フェリカ」搭載のカードを持つている人。3日間で200人の参加を見込んだ。

カードリーダーのネットワーク通信には、九大発ベンチャー企業のPicoco E.L.A.（ピコセラ、福岡市早良区）が開発した超小型無線中継機「ピコセラ」を用いた。

博多駅からキャナルシティまでの経路や動線などの実態を把握し、距離の心理的印象を調査。11年春の九州新幹線の全線開通に合わせ大きな発展が予想される博多駅を中心に、周辺施設への回遊性のある街づくりの在り方を探る上での基礎データを集めた。

プロジェクトの責任者を務める芸術工学研究院の後援）としている。

今回の実証実験は、九州実質は産学官で推進している九州大学芸術工学研究院と同大大学院システム情報科学研究院が主体となり、8社の民間企業が協力する産学連携プロジェクト。無線ネットワーク部分で、文部科学省「知的クラスター創成事業（第II期）」の研究

成果を用いているため、アンケートを書いてもらった。

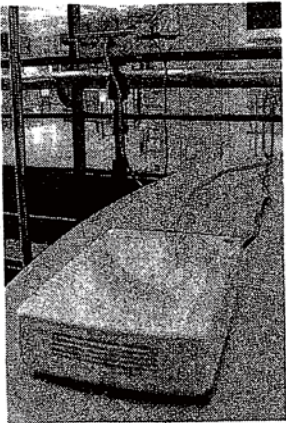
デジタルサイネージの実証実験

産学官でコンソーシアム 年内にも立ち上げ

九州大学



博多駅に設置したタッチパネル式のデジタルサイネージ機器



商業施設に設置したカードリーダー（奥は無線ネットワーク端末）



カードリーダーをネットワーク化するための無線親機